

日本庭園の自然モチーフと表現／水の意味と形態

尼崎 博正

(京都造形芸術大学教授／日本庭園・歴史遺産研究センター長)

1. 日本庭園の自然モチーフと表現

日本の庭園は自然をモチーフとしてきた。『作庭記』が記すように、ことに平安時代にはその傾向が顕著で、滝や湧水から遣水を経て池へと至る空間造形は「水の転生」に象徴される「自然の輪廻」の表現とみることができる。海の見立てとしての池には島が浮かべられ、砂浜の風景は州浜の手法で、荒磯は岩組で表現されたが、平泉の毛越寺庭園におけるその写実性の追求には驚くべきものがある。

毛越寺庭園の庭石は蛇紋岩と粘板岩である。両岩石とも付近には産出しないことから、その選択に作庭者の意図が働いていたと推察される。主たる景石での蛇紋岩は北上川を十キロほど遡った母体(もたい)付近から運ばれてきたもので、暗黄緑色の石肌が荘厳な雰囲気を出していたとみられる(図-3)。

注目すべきは、荒磯の風景を象った築山(図-1)の水際に据えられている粘板岩である(図-4)。これらの粘板岩には穿孔貝であるカモメガイの巣穴(図-2)が検出されたことから、その生息地である三陸海岸で採集されたものであることが明らかになった。写実性を求めるあまり、荒磯を表現するにあたってモデルとした三陸海岸の波打ち際からわざわざ粘板岩を運んできた作庭者の拘りをここに読み取ることができる。このような施工段階における自然描写の緻密さは、自然に倣うという当時の庭園観を如実に物語る典型例といえよう。

2. 水の意味と池の形態

水は神聖・清浄な空間をイメージさせ、あるいは結界性を示す媒体として受け止められてきた。また、生命の源であるがゆえに、輪廻転生の象徴とみなされていた可能性を鑑みれば、浄土世界を表現する重要な要素としての水(池)の役割を理解できよう。

また、初期の中国庭園は不老長生を希求する理想郷としての神仙世界の具現化であり、海の表現である池には仙人島が造形された。韓国の古代庭園を代表する新羅時代の雁鴨池も同様に、神仙思想にもとづく楽園という概念でつくられ、東海(日本海)を象徴する池には三仙島が浮かべられたと解釈されている。

このように東アジアでは、理想郷としての庭園に池がつくられてきたが、その形態はどこに由来するのであろうか。

敦煌の壁画に現存する浄土変相図等に描かれている池は矩形で、左右対称の樓閣建築の前面に仏の出現する「宝池」として存在する。その情景が生みだされたのは、浄土世界が経典として、あるいは絵画として表現される段階で、荘厳華麗なインドや中国の宮殿が重ね合わされた結果である推察される。理想郷は想像しうる最高のものでなくてはならず、布教という面からも、当時の支配者層の住空間を模するのが最も有利であったとみられるからである。

したがって日本の浄土庭園においては方形の池が採用されず、写実的な自然表現を基調とした曲線の池など、貴族の邸宅である寝殿造庭園の様式を踏襲しているのは当然の帰結といえよう。すなわち、理

念から造形への具現化は、それぞれの地域の自然的・文化的な風土と複合的に融合しつつ、かつ世俗とのバランスのなかで実現されていったものと考えられる。

3. 複層する空間原理

「山越阿弥陀図」などにみられるように、浄土思想が普及する過程で自然の山と庭園との視覚的な結合が行われ、その典型的な例が、空間構成の中軸線上に金鷄山を望む平泉の無量光院跡であるとされる。来迎阿弥陀との関係も指摘される山中浄土の思想がどの段階で生まれたのかの検証は今後の課題だが、いずれにせよ、その根底には古来から受け継がれてきた自然崇拜との融合があったと考えるのが妥当であろう。

日本古来の自然崇拜が、神の依り代としての巨岩・

巨木信仰、神体山、そして熊野三山をはじめとする密教系の修験道などといった山岳信仰へと展開

していくなかで、それらは神仏習合と相まって浄土思想にも大きな影響を与えたにちがいない。このように複層する思想・宗教の状況こそ日本文化の特徴といえるからである。

他方では、浄土思想の高揚期に成立した『作庭記』には中国の古代思想、とくに水流の方向などに陰陽五行説の原理を見てとれるという説がある。また、李氏朝鮮時代の韓国庭園でも陰陽五行説に基づく円島方池がつくられる傾向にあったとされる。この陰陽五行説が森羅万象を理論化したものであると解釈すれば、具象的表現であれ、抽象的表現であれ、いずれの時代、いずれの国の庭園においても、その理想世界としての本質が自然への畏敬の念、あるいは憧憬にあったといえるのではないだろうか。



図-1 荒磯の風景を象った築山



図-2 粘板岩に観察されるカメメガイの巣穴

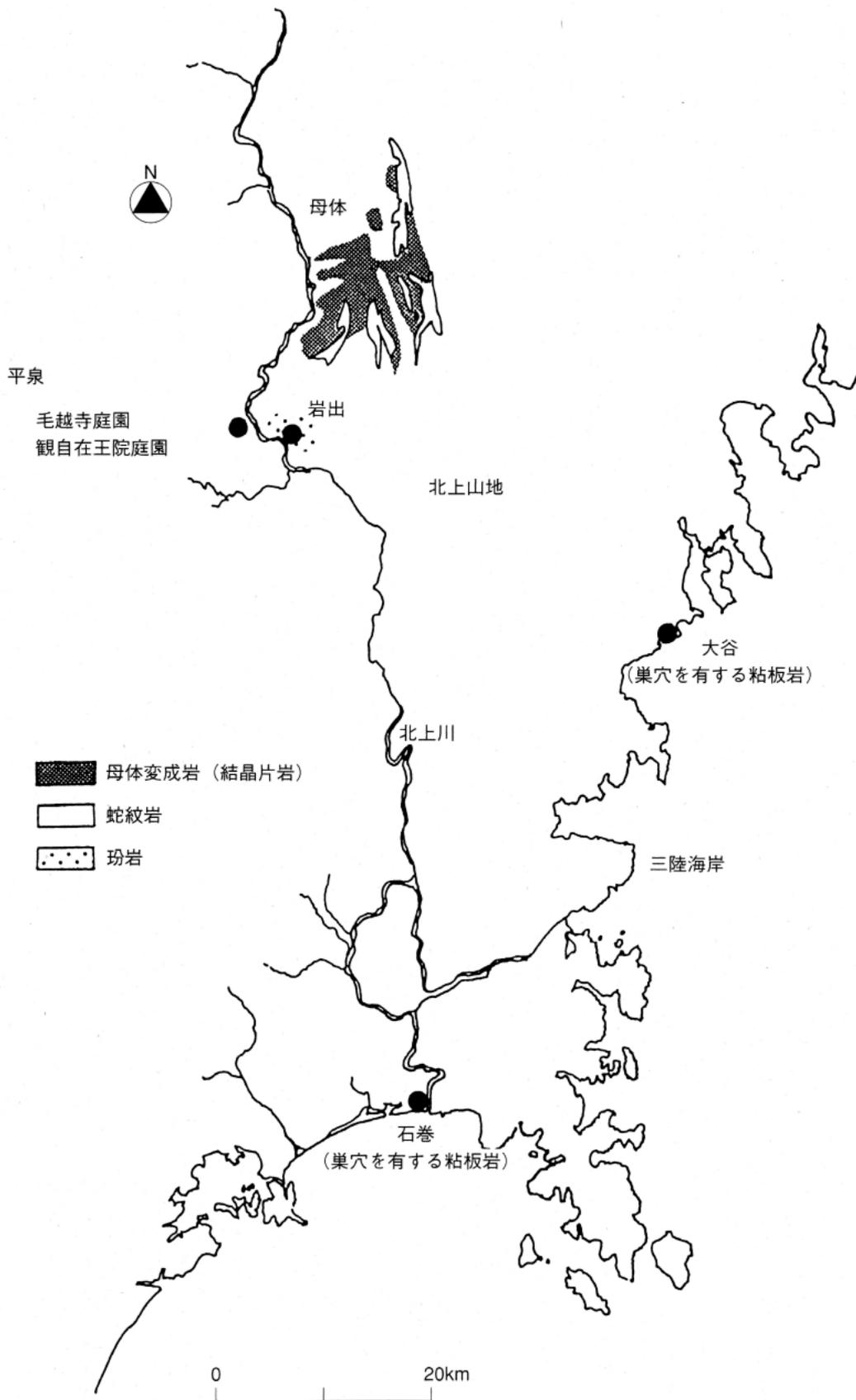


図-3 毛越寺庭園・観自在王院庭園の主な庭石の採集地
 尼崎博正：『庭石と水の由来-日本庭園の石質と水系』(2002年 昭和堂)より

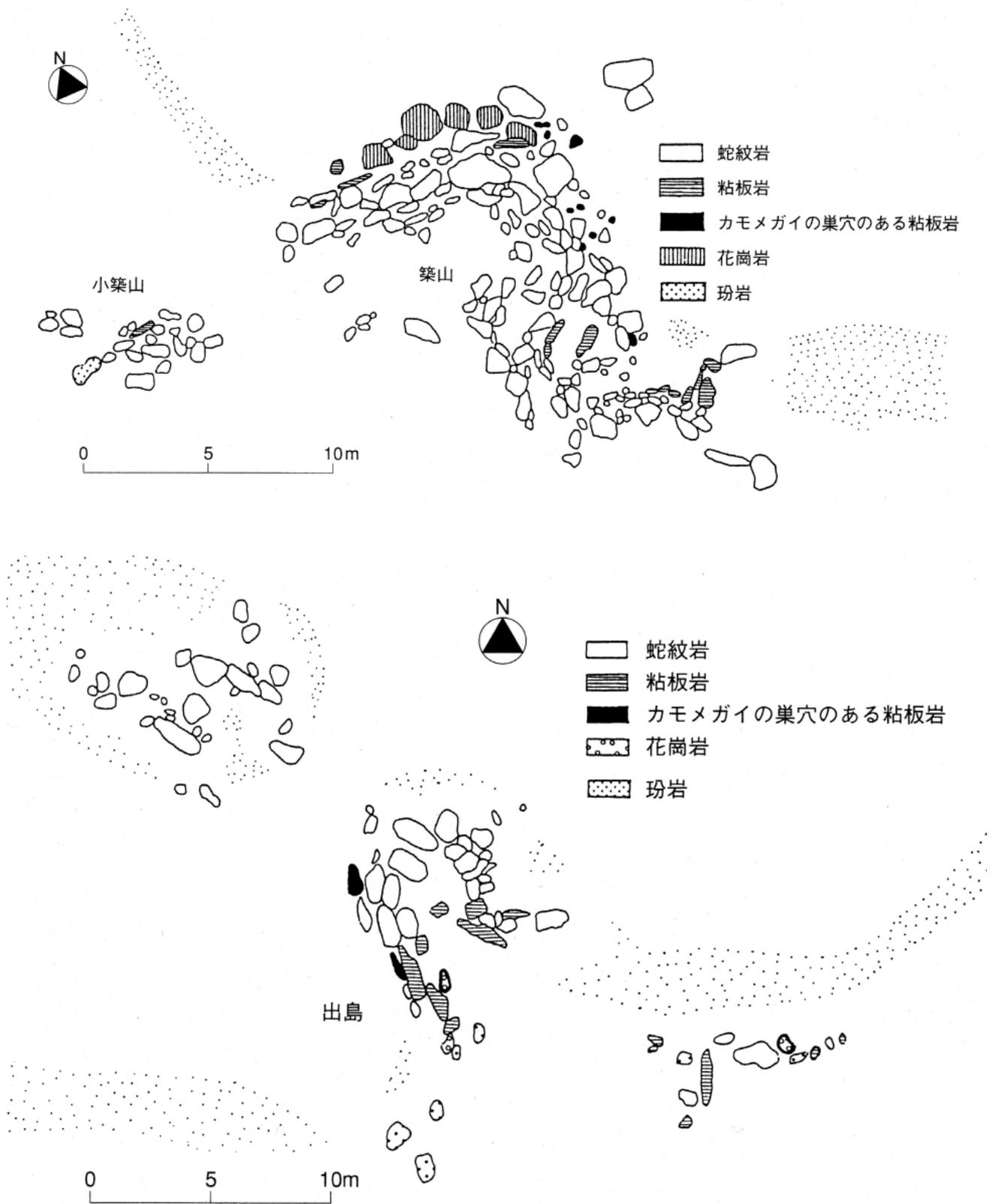


図-4 毛越寺庭園 築山石組(上)と出島石組(下)の石質分類図
 尼崎博正：『庭石と水の由来-日本庭園の石質と水系』(2002年 昭和堂)より